

木のプロダクト展



近年椅子以外の美しい日用品の収集でも知られる織田コレクション。

その中から木という素材をテーマとして、アノニマスなものからクラフト作家、

デザイナーものまで、世界の優れた木製品を展示いたします。

2010.8.1.sunまで公開中

入場
無料



会場／コレクション館
チェアーズギャラリー

開館時間／10:00～18:00 (5月～)

休館日／毎週月曜日

監修／織田憲嗣

主催／旭川デザイン協議会、

織田コレクション協力会

協力／旭川家具工業協同組合

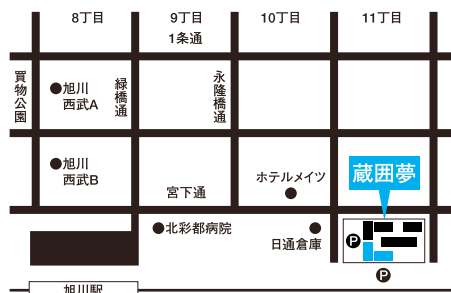


ASAHIKAWA DESIGN ASSOCIATION

旭川デザイン協議会

〒070-0030 旭川市宮下通11丁目
「蔵囲夢」コレクション館内
Tel.0166-23-3000 Fax.0166-23-3005
E-mail ada@ada-jp.org
Hp http://ada-jp.org/

2010 Vol.21
発行日／2010年5月14日
発行／旭川デザイン協議会
発行責任者／小林 謙
編集スタッフ／上田政夫・福士成悟・井上隆也・
松澤衛・西嶋美代子・旭川広告デザイン協議会



Design Gallery

デザインギャラリー

Information

JAGDA 北海道ポスター展

4月27日(火)～5月9日(日)

主催／旭川デザイン協議会、日本グラフィックデザイナー協会

第6回 日本画展

5月11日(火)～16日(日) 主催／日本画の会

墨原社臨書展

5月18日(火)～23日(日) 主催／墨原社

名流いけ花展

6月1日(火)～6月6日(日) 主催／旭川文化連盟華道協会

群像舎書展 2010

6月8日(火)～6月13日(日) 主催／群像舎

旭川工芸デザイン協会展

6月15日(火)～27日(日) 主催／旭川工芸デザイン協会

旭川広告デザイン協議会展

6月29日(火)～7月11日(日)

主催／旭川広告デザイン協議会

第32回天新書展

7月13日(火)～18日(日) 主催／書の研究天新

入山恵津子・酒井美代子展

7月20日(火)～25日(日) 主催／入山・酒井

糸・横田尚子展

7月27日(火)～8月1日(日) 主催／横田尚子

第30回秀彩会水彩画サークル展

8月3日(火)～8日(日) 主催／秀彩会

中谷欣也展

8月10日(火)～22日(日) 主催／中谷欣也

写真道展巡回展

8月24日(火)～29日(日)

主催／道亨協旭川支部



ASAHIKAWA DESIGN ASSOCIATION

DESIGN NEWS 43° vol.21

旭川デザイン協議会会長 小林 謙

旭川デザイン協議会は、1999年4月にスタートしてから、2009年で10年を超えました。会員の皆様は、各分野で責任ある多忙な方ばかりにもかかわらず、手弁当で集まり、会を支えていただいています。本当に有り難うございます。また、旭川市をはじめ関係各位のご理解には、会員一同深く感謝しております。

2005年から5年連続して行ってきた「旭川デザインマンス」。2009年のテーマは「食とデザイン」でした。農業生産者やシェフと共同して旭川のオリジナルな料理を開発、同時に滝本副会長による新しい食器が提案された「あさめし」プロジェクト。スプーンをテーマにした旭川工芸デザイン協会展、市民へ公募した「あなたが考えるMYスプーン募集」を受けて旭川美術館では、「大切な人に贈りたい」スプーン展・ワークショップ。またコレクション館では、「食を演出する椅子とフラットウェア展」、「旭川の食」をユニークなプレゼンテーションで表現した旭川広告デザイン協議会展、家具組合では「カグカフェ」など、それぞれの分野から「食」へアプローチしていただきました。これをきっかけに、旭川地域の特徴を生かし「食べる」事と、食の周辺にある「作ること」の結びついた、オリジナルな「デザイン」が生まれてゆくことを期待しています。

8月8日、9日の両日「三都市+

ONEデザイン交流会議」が函館市で開催されました。会議と宿題の発表、開港150年の記念行事会場見学、交流会と特設超ミニバル、翌日のオプションツアー等々、またまた次回開催地が悩む、やり過ぎの交流会議でした。函館デザイン協議会の皆様ありがとうございました。

デザインギャラリーの運営は順調で、ほぼ全会期が埋まり、来館者も昨年より2700名あまり増え約19300名でした（コレクション館はほぼ昨年同数）。今年は映画上映まであった交流サロン、会員の絵付けした「だるま」の展示やワークショップなど新しい試みの「旭川デザイン協議会展DARUMAだるま」「建築&スペース展」。また、勝浦副会長にお骨折りいただいた、磯田憲一、土岐美由紀両氏によるADAセミナーもすばらしい内容で、私は今回の「君の椅子プロジェクト」の他にも、写真甲子園、ニューデザインパラダイス、株主制度などユニークな試みを続ける東川町にも大変興味を持ちました。

以上多くの事業の一部を報告しましたが、デザインマンスの「食」、函館の開港記念行事、また函館・帯広・札幌と先行している駅前の再開発等、今の旭川には大変参考になるのではないかと思います。デザインマンスなどでは、いろいろな分野のデザイナーの連携という成果が上がってきていますが、旭川デザイン協議会展などそれぞ

れの事業では、理事をはじめ担当会員には大変なご負担をかけております。多くの会員参加による斬新な企画・運営が望まれます。デザインギャラリーの利用は順調に推移しましたが、駅周辺開発に絡み近隣にいくつかの展示スペースの新設などが計画されており、予断を許さない状況です。2010年には、旭川駅のオープンや「2010旭川開村120年」の記念行事など、旭川市自体が大きな転換を迎える要素がたくさんあります。

そのようななかで、これからの活動はどうあるべきなのでしょう。昨年秋、渋谷前会長も交え2回にわたり「ADAビジョン会議」を開きました。そこでは、自主事業予算を見直して、若手育成や会の将来のための事業計画に振り向け、会報も、外へ向かって北海道のオリジナルデザインを掘り起こし発信するものとしたい、等等が話し合われました。こういった観点から、2010年には、ウェブサイトの更新を手始めに、デザインマンスや自主事業を見直す計画です。秋には、10年を振り返り将来に向けた記念行事を、という希望も持っています。これら一連のことに、ぜひ若い世代の会員の活躍を期待したいと思います。



「大切な人に贈りたい」スプーン展（北海道立旭川美術館）



食を演出する椅子とフラットウェア展（コレクション館・チェアーズギャラリー）



旭川工芸デザイン協会展 スプーンテーマの展示コーナー（デザインギャラリー）



「旭川デザイン協議会展DARUMAだるま」（デザインギャラリー）

ADA展2009を終えて



「願」掛け”だるま”を描いて、立ち上がれ！！

2009年度ADA展は、2010年1月5日～20日迄の15日間の期間で、テーマは”だるま”で開催しました。

今回は、多様なジャンルの会員による作品の展示に加え、会員作品の「販売コーナー」と「オークションコーナー」を設け、「ワークショップ」を行いました。

テーマ”だるま”は、全会員参加企画として、各人が真っ白な”だるま”を自由にデザインして、今の暗い世の中を七転び八起きで立ち上がり、今年1年を乗り切る「願」を”だるま”に掛けて、ユニークなオリジナルデザインの”だるま”39体をホール入口正面に展示しました。入口右側には大きな”白だるま”を置き、来場者に「願い」やコメント等を自由に書き込んでもらいました。

「販売コーナー」には5名の会員の協力を得、「オークション」には2名の会員作品10点が出され、4作品が入札されました。「ワークショップ」は、「ステンドグラス制作」「親子で作ろう建築模型」「白だるま変身絵付け」「フラワーアレンジ」を行い、28名の参加がありました。

ADA展開催中の1月16日午後5時より交流事業部による「第3回デザインサロン」新年会が当会場で開催、展示作品の観覧と「願」を掛けた39体のだるま品評が行われました。特に小林会長と伊藤専務理事による辛辣なる品評で大いに盛り上がり、今迄にないサロンの様相で楽しく閉会となりました。2010年度ADA展は新テーマで行いますので、是非全会員の参加を宜しくお願い致します。



ADA展事業部 部長 鈴木 徳雄
副部長 石田 悟
副部長 村上 博樹
アイディア担当 荒井 善則

『旭川デザイン協議会展DARUMAだるま』ワークショップ報告

今回のステンドグラスワークショップには合計7名様のご参加をいただきました。全員が生まれて初めてのステンドグラス製作体験でしたが、終始笑顔と笑い声に包まれた雰囲気での制作となりました。2時間後には全ての作品が完成し、生まれて初めてとは思えない程の力作となりました。今回のワークショップを通じてステンドグラスのみならず、手作りの楽しさを一人でも多くの方に知っていただければ幸いです。今後も様々なイベントを通じて、デザインギャラリーへより多くの方がお越しくださることを切に望みます。

ステンドグラス アトリエ・デシモエ
代表 及川 知巳



ステンドグラス制作

1月17日(日)『フラワーアレンジ』のワークショップを担当させて頂きました。テーマは『苔玉アレンジ』吸水性スポンジに糸で苔を巻きつけ、苔玉のようなベースを作り、生花を挿すアレンジメントを作りました。

参加費:1500円で定員10名の募集でしたが、13名の方に参加していただくことができました。

フラワーアレンジは初めて作るという方がほとんどでしたが、『お花が好き』というよりは、『モノづくりが好き』という方の参加が多く、それぞれいろいろとデザインを工夫しながら活けていました。みなさんの手際もよく予定時間より早く終わる事ができ、そこで出会った方数人でコレクション館に移動して、コーヒーを飲みながら交流を深める姿も見られました。

fragile 林田 千秋



フラワーアレンジ

ADA展事業部では恒例の、会員による作品発表に併せ、白ダルマを使ってオリジナル「願掛けダルマ」を制作し、作品展を開催いたしました。普段見慣れているダルマから手や足が出たり、様々な装飾で施された個性溢れる「ダルマ」に変身し、カラフルで夢のある空間を作り出しました。クリエイターの個性が遺憾無く発揮され、縁起の良い「ダルマ」たちによって、新年を飾ることが出来たようです。市民参加によるワークショップでは、思い通りのだるまが描かれ、楽しい一時を共有することが出来ました。

荒井 善則



白だるま変身絵付け

交流事業部は会員交流の活性化を目的として、2009年度は下記に上げた年4回の交流サロン会を実施した。各サロンでは多くの会員協力と参加者を得ることができ感謝を申し上げます。

特に記憶に残るのが第3回交流サロンで実施した、協議会初の上映会となる「ミステリアス・ピカソ 天才の秘密」の上映です。放映権（映画料）に関しては交流事業部会担当の勝浦恭子副会長と事務局の江口さんにはお世話になりました。また、藍工房には上映会場設営ならびに大型スクリーン（200インチ）とプロジェクターの手配をいただき、試写投影会を行い事前準備に時間を費やしていただきました。この作品はフランスで1956年に制作されたアンリ=ジョルジュ・クルーゾー監督によるドキュメンタリー映画。初公開は1957年でカンヌ映画祭での受賞作品です。

第1回交流サロン

開催日6/16（火） 18:30～20:00
参加者49名

第2回交流サロン

開催日6/20（土） 19:00～21:00
参加者27名

第3回交流サロン

開催日10/13（火） 18:30 OPEN
19:00～21:00 参加者42名

第4回交流サロン

開催日1/16（土） 17:00～19:00
参加者31名



上映会交流サロン



ADA展交流サロン



旭川市開村120年ロゴマークのデザイン 会員 福士 成悟氏の作品が選定されました

明治23年、現在の旭川市の基礎である旭川村・神居村・永山村の3村が上川郡に設置され、今年で120年を迎えます。

これを記念して昨年12月、旭川市より開村120年ロゴマークの制作がADAに委託され、ADA、aadc会員によるデザインコンペを実施しました。

審査の結果、ADA会員福士成悟氏の作品が選定され、旭川市開村120年を記念して行われる様々な事業に関連した印刷物、各種媒体等に使用されます。

●デザイン趣旨

「120」の数字で旭川の「旭」という文字を表現。1、2、0はそれぞれ緑の大地、豊かな水、先人の情熱を意味するとともに、「0」の部分は旭川の語源「旭の昇る所」を表現。120thのthが川面に映る影に見立て、旭川の「川」の字を表しています。

旭川市開村120年 記念事業

旭川市シンボルキャラクターの デザイン募集

旭川らしいキャラクターのデザインを一般公募しています。キャラクターの着ぐるみなどを作り、各種イベントや広報活動に活用します。

A4判の白紙にデザインを描いて、7月16日まで（必着）に開村120年記念事業実行委員会（〒070-8525 旭川市7条通10丁目 第三庁舎分庁舎2階）に郵送またはご持参ください。詳しくは同実行委員会、または旭川市ホームページ（<http://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/>）「総合政策部主幹（開村120年記念事業担当）」にある応募要項をご覧ください。

巡回パネル展「この街・旭川～街の成り立ちとあゆみ」を開催 6月5日（金）～15日（火）の江丹別市民交流センターを皮切りに市内各所を巡回します。

また、神楽公民館において「特別講座・旭川120年の歩み」を実施します。

詳細は、「こうほう旭川」をご覧ください。

農産物・海産物の味覚を集結させた巨大市場が登場します。 10月7日（木）～11日（月）、旭川市と道北各地域の農産物・海産物などの味覚を集結させた巨大市場などが、旭川市中心街に登場します。

開村当時、寒冷な気候が稲作に適さないと言われていた上川地方。それから120年、先人の情熱と努力によって上川百万石と言われるまでになりました。

そして、今では食の供給基地として益々重要な役割を果たしています。

食を通してこれからの旭川の在り方を市民と一緒に考える事業として開催されます。

『君の椅子プロジェクト』に見る、人と地域をつなぐアートのカ ～平成21年度ADAセミナーを開催

勝浦 恭子

「『君の椅子プロジェクト』に見る、人と地域をつなぐアートのカ」

平成21年度のセミナーを実施するにあたって、総務事業部では「これまでとは違う内容で」という視点からセミナーの企画を考えました。なかなか内容が決まらなかったのですが、何度か部会で話し合った結果「君の椅子プロジェクト」の発案者である磯田憲一さんを招いて講演会を行うことになりました。3月26日にセミナーが行われ、参加者は40人でした。

ようこそ、ここが君の居場所だよ

「君の椅子プロジェクト」は、これまで様々なメディアで取り上げられているので、ご存じの方も多いと思いますが、旭川大学大学院の磯田憲一ゼミが発案したプロジェクトで、生まれた子どもに「ようこそ、ここが君の居場所だよ」という祝福の思いを込めて椅子をプレゼントしようという取り組みです。

ゼミの提唱を受けて東川町で2006年にスタートし、次いで剣淵町も実施。2010年には愛別町も実施することが決まっています。このプロジェクトについて磯田さんは、「大学に招かれてゼミを行うことになったとき、実際に地域に政策を提案して、それが形になっていくという経験を学生たちにさせたいと思ったんです」と話します。

そこで、旭川地域にある「家具づくり」という「カ」を生かし、生まれた子供を、



居場所としての椅子という形で祝福しようという発想が生まれました。子どもの誕生を祝福するコミュニティの絆や、地域の持つ技術力や資源を再認識することで、地域の活性化にもつながるはずだと、磯田さんは話します。

中村好文さんがデザインを「志願」

さて、どんな椅子を作ろうかと思案していた磯田さんは、偶然、展覧会で一脚の椅子に出会います。心引かれた磯田さんは、作り手である中村好文さんを訪ね、プロジェクトのことを話します。共感した中村さんはその場で「椅子のデザインをさせてほしい」と「志願」したということです。こうして、最初の椅子は、デザイン中村好文、制作は東川町在住の大門巖さんに決定。その後も、伊藤千織、前川秀樹、小泉誠さんら日本の第一線で活躍する人たちがデザインし、旭川家具の優れた作り手が制作してきました。

2010年のデザインは三谷龍二さんに決定しています。

人と地域をつなぐアートのカ

セミナーでは、磯田さんと共に、道立旭川美術館の学芸員である土岐美由紀さんが、「君の椅子」のデザインを解説。土岐さんは「作品」としての「君の椅子」を高く評価しており、各年の椅子は同美術館の収蔵品となっているほか、2010年度のミュージアム・カレンダーは2006～2009年までの4脚の椅子が表紙になっています。

「人と地域をつなぐアートのカ」の素晴らしい事例として、中学校の美術の教科書に、このプロジェクトが紹介されるということも聞いています。

磯田さん、土岐さんの熱のこもったお話に、セミナー参加者は熱心に耳を傾けていました。



歴代の「君の椅子」を前に講演する磯田憲一さん。椅子は、左から2009年（デザイン/小泉誠、制作/大門巖・大門和真）、2008年（前川秀樹、向坊明）、2007年（伊藤千織、宮地鎮雄）、2006年（中村好文、大門巖）

磯田憲一氏プロフィール

磯田憲一さんは、旭川大学大学院教授であると同時に、(財)北海道文化財団の理事長として、また、NPO法人アルテピアッツアびばいの理事長として、様々な文化活動に積極的に関わっています。



昨年開催された旭川大学「AELセミナー」にて、左から磯田憲一さん、大門和真さん、大門巖さん、中村好文さん



北海道立旭川美術館の土岐美由紀さんは、自作の資料をもとに、「君の椅子」について熱く解説してくれました。



visualogue

「新しい対話のカタチ」 旭川広告デザイン協議会 やはずのよしゆき



私たちグラフィックデザイナーが仕事として関与する限り、情報は「製品」でもあり、そこには当然「品質」があります。そして、品質のよい情報とは、とてもスムーズでストレスのない理解をもたらしてくれるはず。私たちの役割は、物事の本質をしっかりと捉え、整理整頓し、それに触れる人々に本当の意味でチカラを与えられる姿や、カタチとして情報を社会に環流させていくこと。そういう中において、グラフィックデザイナーが仕事とは別に、自己の表現として新しいスタイルでコミュニケーションをとる“Visualogue”という試みを、昨年12月、旭川市5条7丁目フードテラス内にできた「エスペランサムートン」というお店の壁を使わせていただき始めました。

“Visualogue”（ヴィジュアルログ）とは、visual（視覚的）とdialogue（対話）を組み合わせた造語で、「新しい対話のカタチ」を意味しています。つくり手のメッセージと受け手の感覚がクロスするとき、そこにどんなエネルギーが巻き起こるのか！そんな思いを胸に、少しでも多くの人たちとのコミュニケーションを求めて作品を展示販売しています。

これは、20年近く親交のある「エスプリムートン」のオーナー田所さんから、中心街活性化と新しいカタチの店づくりを手伝って欲しいという声をかけていただいたところから始まりました。「スペインのバルのような気取らないスタイルでありながら、ここにしかないスペインのバルとは違うオリジナルな空間にしたい。」と意味のわからないことを言われ。。。笑



そこで、インテリアコーディネーターの大谷薫さんにお手伝いいただき、腕と知恵を振るってもらいました。大谷さん曰く「エスペランサムートンのイメージは、“夕暮れ時のテラス（中庭）”。夕暮れに少しずつ灯る家々の明かりは、外から見るととても暖かな幸せを感じさせます。そんな、ちょっと物悲しさとおほんのり人恋しさを感じる空間にしたいと思い、



このイメージを大切に、雰囲気づくりに重点を置いたデザインとしました。」と、大谷さんのカラーも満載なお店です。そうやってできた「エスペランサムートン」は、大人の社交場としてお酒をより美味しく愉しむための上質なおつまみ料理をキャッシュ・オン・デリバリー（代金引換渡し）にてご提供。ひとりでも立ち飲み感覚で気軽に立ち寄れる、ちょっとおしゃれな空間のお店となりました。

“Visualogue”は、これまでの「広告」や「アート」といった呼び方に替わる、新しいスタイルのグラフィック表現です。これからもグラフィックデザイナーならではの手法で、メッセージそのものをどんどんデザインしていきます。

私たちグラフィックデザイナーがこのように自己アピールの場を持つことで、普段の仕事に生かせるトレーニング場であったり、さらにデザインの感性を磨いたり、これから21世紀の生活にグラフィックデザインがどう貢献できるのかなど、未来のコミュニケーション・デザインを見通していくその理想的な姿を、ご覧いただくみなさまと一緒に共有しながら“Visualogue”を続けていきたいと思っています。

ちなみに、作品は販売（¥3,000～）も行っているので、お気に入りのビジュアルを、ご自宅やお店、職場などさまざまな場所へぜひ飾りください。

6丁目	7丁目	8丁目	9丁目
6条通	フードテラス ●	エスペランサ ムートン	
5条通		● ローソン	● 北洋銀行
4条通	昭通 ● セブン ● イレブン	旭川公園 ● モス バーガー ● 歌屋	緑通 ● 北大学力増進会
3条通	オクノ ●	旭川駅 至旭川駅	

旭川市5条通7丁目買物公園通 旭川フードテラス 1F
Tel. 0166-22-1088 Open. 17:00～23:30

MUSEUM INFORMATION

自然の中に身を置く彫刻たち——アルテピアッツァ美唄

美唄市の山間にある公園には、地元出身で国際的に知られるイタリア在住の彫刻家、安田侃氏の大理石やブロンズの作品40点が展示されています。

木造二階建ての旧小学校校舎は数十年前の標準的建築様式で、地域の人々のみならず訪問者の郷愁を誘います。現在、ギャラリーそして一部は市立幼稚園として使用され、彫刻と将来を担う子どもたちが共存しています。

木々茂る山々や清流に囲まれた7万平方メートルの公園内には、四季の移り変わりを満喫しながら彫刻と触れあうことができ、園内にはカフェや芝生の広場もあり家族や友人達と一日ゆっくり楽しむことができます。

インフォメーション

- 開館時間
水曜日～月曜日 午前9時～午後5時
入館無料
- 閉館日
毎週火曜日・祝日の翌日（日曜日は除く）
12月31日～1月5日
- 交通
JR:美唄駅下車、市民バス「アルテピアッツァ美唄」行きで20分。
車:道央自動車道、美唄ICより右折、5分。駐車場有り。
- 住所
美唄市落合町栄町
TEL 0126-63-3137
<http://www.kan-yasuda.co.jp/arte.html>

